

審査員特別賞

支援のかたち

東京学芸大学附属国際中等教育学校 2年

富木 南葉

私の姉は今年の春、学校の研修旅行でフィリピンを訪れました。フィリピンは日本と同じ災害大国です。地震も多く、加えて台風被害も甚大です。フィリピンの都市部では防災訓練が行われているそうですが、郊外の地域、農村地帯となると全くと言っていいほど行われていないそうです。

2013年、フィリピンを襲った台風ヨランダのニュースは、たいへん悲惨で今でも記憶しています。レイテ島は壊滅的な被害をうけ、たくさんの人が亡くなりました。多くの人命が奪われた理由の一つは、人々に防災という意識がほとんどなく、どこに避難したらいいのかわからなかったということだそうです。このように、フィリピンの都心と郊外では防災意識に大きな差があり、またその差を生み出している原因是、激しい経済格差だと思われるということです。経済格差と防災意識は比例しているように感じます。私は、姉からその話を聞いたとき、そんなことがあってはならないと強く思いました。日本ではありえないことです。災害は、地域や人を選びません。国の経済状況に関係なく、平等に命は守られるべきです。

台風ヨランダの後に、日本からある支援があったことも聞きました。それは、現地の人と一緒にハザードマップを作成し、より安全に避難できる場所の確認をしたということです。マップを作つて終わりではなく、現地の学校でも、防災意識を持つてもらうべく教育支援もあったと聞いています。そういう支援もあるのだと感心しました。金銭的物質的支援ももちろん重要ですが、ことに途上国においては、一人でも多くの命を守るため、防災対策の知識を教えるという支援が最優先に求められているのではないかと思います。

「人に何かを教える支援」の一端になればいいのですが、私は学校のボランティア部で昨年、掃除プロジェクトなるものをたちあげました。これは、掃除の文化がないバングラデシュに日本の掃除文化を輸出するというものです。そのために、掃除を伝える動画を作り、団体を通して現地で上映しました。バングラデシュではゴミをゴミ箱に捨てることがなく、人目につかない建物の裏に捨てられます。そういうことをなくし、衛生環境を改善したいという思いからこのプロジェクトを始めました。動画上映後、現地の小学生は学校を掃除してきれいになった、そして子どもどうじクラブの結成も考えている、と聞きました。私はバングラデシュの方々に少しでもよい影響を与えられたのだと嬉しく思いました。

支援のかたちは様々です。思いもしなかった支援も途上国には必要な場合があります。今後は、自分には何ができるのかをしっかりと考えて、積極的に支援の方法を探していきたいと思います。